

公と災害救助法

の津幡に適用決定

減失換算した結果、全壊6、半壊45、床上浸水13の減失世帯が64世帯となり、60世帯以上の適用基準に該当する。

た。大規模半壊には最大250万円、中規模半壊には同100万円が支給される。

台灯籠13年ぶり修復

穴水・能登中居鑄物館 金沢学院大生が協力

穴水町中居の能登中居鑄物館で8日、同館のシンボルとなっている台灯籠をさび止めする作業が進められた。1849（嘉永2）年に造られた台灯籠は町指定

台灯籠にさび止めを施す金沢学院大の学生

穴水町中居



文化財で高さ2・6m、現存する中居鑄物としては最大を誇る。13年ぶりとなる修復作業には金沢学院大の学生3人も協力し、文化財保全に理解を深めた。

台灯籠は同館の開館に合

わせて1995年に明泉寺（同町明千寺）から移設された。2007年の能登半島地震で倒壊し、国立民族学博物館（大阪）の主導で10年に修復が完了した。このたび、さび止めが

七尾の魅力をアピールする生徒

七尾城跡

七尾

動画2本、市の公配信する。

必要と判断され、学生の手を借りて実施することになった。

13年前の修復に携わった同博物館の日高真吾教授や金沢学院大の中村晋也准教授のほか、同大文学部歴史学専攻の3年生が作業に当たった。学生たちは前日に

ほこりをきれいに拭き取った台灯籠の表面に精製オリブ油をはけで丁寧塗り、無料開放で来館した住民が見守った。

学芸員を志す谷井芹凪さん(20)は「座学では学べないことが多く、貴重な体験で勉強になった」と話した。

新会長に大森町長

能登内浦水産振興協

能登内浦水産振興協議会、珠洲市産業

センターで行われ、役員改選で新会長に大森凡世能登町長を選んだ。

県漁協能都、小木、すず

の各支所管内で今年度こ